

【研究機関紹介】

ニューヨーク市立大学マウントサイナイ 医学校 医療経済研究部

The Division of Health Economics
Department of Community Medicine and the International Longevity Center (U.S.)
Mount Sinai School of Medicine of the City University of New York

福 田 敬

組 織

マウントサイナイ医学校 (Mount Sinai School of Medicine) の医療経済研究部 (Division of Health Economics : 以下 DHE と略す) は地域医療学教室 (Department of Community Medicine) に属している。同教室にはこの他に環境および産業保健部 (Division of Environmental & Occupational Health), 疫学部 (Division of Epidemiology), ソーシャルワーク部 (Division of Social Work) がある。医療経済研究部は、部長であり地域医療学教室の准教授である M.C. ファース教授を代表に 9 名のメンバーで構成されている。

目 的

医療経済研究部の目的としては以下の 4 つを大きく取り上げている。

- 1) マウントサイナイメディカルセンターにおける治療および予防プログラムの経済学的評価を行う。
- 2) 病院管理スタッフと協力し、病院の地域

における役割と資源配分について検討する。

- 3) マウントサイナイ学術健康科学センター (Mount Sinai Academic Health Sciences Center) における方法論の開発を行う。
- 4) 国および地方政府の医療政策決定に際して有用となる費用効果分析等の医療経済学的分析を行う。

「医療経済」は医療現場や医科大学において近年関心を集めている分野である。これは医療における限られた資源および財源の中で、いかに効率的に配分を行うかが問題となっている昨今の状況から生じたもので、効率的な配分を行うためには、臨床現場あるいは政策のレベルにおける医療に関する意思決定に際して経済学的手法を要求されることが背景となっている。しかし、現実には臨床家が直面するさまざまな問題や医学教育における取り入れ方、今後の医療技術の進歩等さまざまな側面を検討する必要がある。DHE では、特にマウントサイナイ医学校、ニューヨーク市立大学等の関連各教室と連携を保ちながら、セミナーでの討議や研究者の相互協力プログラム等を通じて本目的の達成に

努めている。

活 動

DHEにおける活動の第1は教育である。対象は、レジデント、看護職員、ソーシャルワーカー、社会科学系大学院生等である。医療における経済学的評価の方法と意義について特に強調している。第2には、一般的な経済学的分析手法を医療分野のさまざまな場面に応用することである。その際には新たなモデルや計量に関する手法の改良等が必要とされる。第3には数学的なモデルと現実の医療とをいかに融合し、政策決定に役立てるかを検討することである。医療分野における政策研究には、近年、費用および効果の両側面から多変量解析等の手法が用いられてきているが、これらをさらに発展させ政策的課題の解決に資することを試みている。これらの活動を通じて最終的に目指しているものは、アメリカおよび諸外国のさまざまな人々、地域における医療に関連する問題に経済学的手法を適用して政策研究を行うことにより、アメリカにおける、あるいは世界の人々に貢献することである。

最近の活動

DHEでは近年、アメリカ国内および国際的な医療経済、医療政策、医療サービス研究の分野で研究を行っている。研究は、研究助成金や研究委託契約によりサポートされている。

近年行った主な研究には、

- ・高齢者における子宮頸がんのスクリーニング検査の費用効果分析
- ・医師の行動に関する経済学的モデルの開発等があり、現在なお取り組んでいる活動は、

- ・ニューヨーク州のメディケイドにおけるManaged Careの分析。特に質、アクセス、管理費用、公私のサービスの代替性、費用対効果について。
- ・メディケイドにおける費用と効果に関する研究
- ・AIDSに関する医療提供と費用について。
- ・小児におけるAIDSの医療費
- ・メタドン服用患者におけるManaged Careに対する評価
- ・大腿骨骨折の高齢女性患者に対する精神的援助が患者の機能、QOL、費用（直接・間接）に与える影響
- ・高齢者に対する予防的ケアの費用効果分析の方法論の検討。特に効果の判定方法について。
- ・コンピュータシミュレーションを用いた費用効果分析の方法論の検討などがある。

国際長寿センター

ニューヨーク市立大学マウントサイナイ医学校にある国際長寿センター（The International Longevity Center）はアメリカの医科大学において初めて設置された老年学教室の1つの機関として発足したもので、世界的な高齢化社会の到来を見据えて、日本とアメリカのセンターを中心に活動しているものである。理事長は老年病学の権威ロバート・バトラー教授で、日本においても講演等多数行っている。同センターの基本的理念は“Productive Aging”であり、高齢者が貢献できる社会作りを目指している。DHEのメンバーはILCの活動の多くの部分を担っている。

近年における主な活動は、ILC-Japan および

筆者らの東京大学グループと共同で日米高齢者医療の比較研究を行うことである。1994年度の報告書においては日米高齢者医療費に関してさまざまな知見が得られている。今後も引き続き日米での共同研究をすすめ、特に、医療費および医療消費量の比較のための適切な方法の開発や、日米両国における健康状態、疾患、ソーシャルサポートの差などによる医療消費の違いなどを中心に検討する予定である。

また、ILCでは医療経済学に関する講演会等を積極的に開催しており、1995年には、“Are We Spending Enough on Health Care?”と題して、経済学におけるノーベル賞受賞学者であるRobert Fogel教授、Wassily Leontief教授による講演会を開催している。

その他のサービス

DHEではDepartment of Community Medicineの他のメンバーと共同で、Mount Sinai Health Services Research Careを構成している。この組織はMount Sinai Medical Centerにおける医療の効率性、質、費用等を検討し、Centerの管理者に運営上の助言を与える、いわば内部コンサルティング機関である。また、Medical Care, The American Journal of Public Health, The Milbank Memorial Fund Quarterly等の雑誌の査読も担当している。

おわりに

ニューヨークのマウントサイナイにある

Division of Health Economicsは規模的には小さいながらも研究、教育両面において優れた機関である。Divisionは代表であるM.C.ファース教授を中心に運営され、特にファース教授とMuller教授の働きは特筆に値する。Muller教授は医療経済学の名誉教授で、高齢の女性であるが、研究に関する討議においては鋭い洞察力と優れた理解力を有する存在である。筆者は1992年に、ILCの研究者交流プログラムにより3か月間、ニューヨークで主にこの両教授に指導を受け、共同で研究を行ったが、日本の医療システムや日本の高齢者がおかれている家族的背景等、よく理解されており、一緒に研究をしていても非常に有意義な討論ができたことをつけ加えておきたい。なお、同機関についてのより詳細な情報を希望の方は、以下へご連絡されたい。

Marianne C. Fahs, Ph. D., M.P.H.
Director and Associate Professor
The Division of Health Economics
Department of Community Medicine and the
International Longevity Center (U.S.)
Mount Sinai School of Medicine of the City
University of New York

One Gustave L. Levy Place, Box 1043
New York, NY, 10029-6574

Tel : (212) 241-3184 ; Fax : (212) 360-6965

または

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学医学部保健管理学教室

福田 敬

Tel : (03) 3812-2111 内 3511 ; Fax : (03) 3815-0258

(ふくだ・たかし 東京大学医学部助手)